

## 12月・月例研修会

## 斑鳩三塔と藤ノ木古墳を巡る

岡崎 節子

12月12日の朝は寒く、JR法隆寺駅9時30分集合、参加者10名にパンフレット配布。富井さんの挨拶の後、法隆寺駅をスタート。強風を受けて車道を横切りながら斑鳩観光Iセンターへ10時に着く。センターで2名合流。(休憩、トイレ)斑鳩観光Iセンターで藤ノ木古墳、法隆寺西円堂の案内ガイドさんの永井・高田さんが紹介される。参加者は2班に別れて15分ほど歩き藤ノ木古墳へ。斑鳩文化財センターでまず藤ノ木古墳のビデオ鑑賞する(30分)。

**藤ノ木古墳**は古墳とわかるまでは柿の木などが植えられていた。発掘調査の結果、径50メートル、高さ9メートルの円墳とわかったが、現状は水田や建物により削り取られて、高さ7.6メートル、最大径約40メートル。玄室は円墳の中央部に設けられていることが分かる。第1次調査(1985年7月22日～12月31日)で横穴式石室と家型石棺が検出。また馬具類や武器など出土。特に金銅製鞍金具は非常に珍しく、この鞍金具の発見で藤ノ木古墳は一躍有名になる。第2次調査(1988年5月9日～7月8日)ではファイバースコープで石棺内の確認調査をし、棺内に水が溜まっていることがわかる。第3次調査(1988年9月30日～12月28日)は、未盗掘の家型石棺を開口、内部調査実施。開口には事前に実物大の石棺の複製を造って実験し、石室内の開棺作業に支障のないように配慮する。棺内には水がたまり多数の繊維断片が浮遊していた。金銅製冠、金銅製履などの装身具、鏡、1万点以上のガラス玉類などの副葬品が検出される。棺からは2体の人骨、男性2人の合葬である可能性が。元々穴穂部皇子の陵墓に同母弟崇峻天皇の合葬説も。南側被葬者については女性説も存在する。



法隆寺西円堂は八角造りで、西院伽藍の北西の小高い丘にあります。奈良時代に橘夫人の発願によって行基菩薩が建立したと伝えられている。現在の建物は建長2年鎌倉時代中期に再建され、お堂の中央にわが国最大級の乾漆像、本尊薬師如来像が安置されている。西円堂の薬師如来は、法隆寺の同じ薬師如来以上に民間信仰を集め、堂内に無病息災、延命長寿を願って寄進された刀、鏡などの品が所狭しと置かれていたといわれています。

法隆寺は7世紀に創建され、聖徳太子ゆかりの寺院です。創建は金堂薬師如来像光背銘から、推古15年(607年)とされる。金堂、五重塔(国宝)を中心とする西院伽藍と、夢殿を中心とする東院伽藍に分けられる。法隆寺の建築物群は、法起寺と共に法隆寺地域の仏教建造物として、ユネスコの世界遺産(文化遺産)に日本で一番初めに登録された。5代将軍徳川綱吉の生母、桂昌院によって伽藍の修造が行われた。

天満池の土手で昼食の予定が、寒くて法隆寺Iセンターまで戻り食事をさせて貰いました。センターを12時35分に天満池へと出発。天満池は高台にあって風も強く寒さに震えながら、野鳥に造詣の深い勝田緑さんの説明に耳を傾け、3種類の野鳥(コガモ、カイツブリ、ホシハジロ)を双眼鏡で観察しました。斑鳩神社を上がり下から眺め、舗装道の落ち葉を踏みながら法輪寺へ。

**法輪寺**は、聖徳太子の息子「山背大兄皇子」が太子の病気回復を願って建立したという説がある。別名三井寺とも呼ばれ本尊は薬師如来座像。三重塔は1944年落雷により焼失、1975年に焼失前と同じ位置に棟梁西岡常一氏の手により再建される。次に法起寺へと東に歩きます。(10分ほど)

**法起寺**、聖徳太子が法華経を講説されたという岡本宮を寺に改めたと伝わる。三重塔は昭和17年に解体修理。高さ24メートル、日本最古(国宝)。57年には重要文化財の十一面観音菩薩を安置する収蔵庫を新設している。

バスの時間まで30分ほどあり、法起寺を拝観する人、外から三重塔を眺める人、各自で思い思いにゆったりと楽しめます。時間に余裕もありJR大和小泉駅まで歩くことにし、雑談しながら駅に到着。14時10分乗車、JR奈良駅着14時27分。忘年会会場まで歩いて行きました。

皆さん、寒い中ご参加ありがとうございました。お疲れさまでした。